

2025年3月8日

令和6年度 世田谷区立三宿中学校学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立三宿中学校
学校関係者評価委員会
委員長 友野 清文
学校長 濱川 一彦

【はじめに】

今年度は本校創立20年を迎える、11月9日の記念式典をはじめとする多くの関連行事・企画が実施され、大きな成功を収めた。そして次年度以降へのさらなる飛躍の第一歩となった。教職員・PTA・卒業生・地域など、すべての関係者に御礼を申し上げる。

本報告書では、本年度の学校経営方針に示されている「重点項目」について、世田谷区教育委員会の実施する学校関係者評価アンケートの結果を基に、その達成状況を確認し、次年度への提言を行う。

令和6年度の学校経営方針では、「教育目標」と「校訓」の下で、「重点項目」として以下の6点の事項が示されている。

【教育目標】

- ・自ら学び、考え、正しく行動する生徒
- ・励まし合う生徒
- ・心身ともに健康な生徒

【校訓】

「智」物事を正しく見抜く力をつけ、正しく実行できる人を育てる。

「優」思いやりの心を素直に表現でき、励まし合える生徒を育てる。

「翔」心身ともに健康で大きく羽ばたく。たくましい人を育てる。

【重点項目】

- (1) 「キャリア・未来デザイン教育の推進と実現」
 - ・キャリア教育
- (2) 教員の指導力向上
 - ・「生徒の理解を深め、活用・探究する授業の推進」
 - ・「教育デジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進」
 - ・「自己肯定感を高めるため、わかる教科、好きな教科を増やす工夫」
 - ・「教員研修の充実」
- (3) 個を生かした教育の推進
 - ・「生徒の個性が生かされる教育の推進」
 - ・「不登校生徒へのアプローチ方法を工夫し改善を促す」
 - ・「生徒・教員が双方向で規範意識を高める生活指導の推進」
- (4) 生徒の主体性の育成
 - ・「学校での生活や行事において生徒が主体的に関わり、成長を実感できる指導の充実」
 - ・「学校生活への適応指導と部活動の適切な指導の徹底」

- ・「健康や体力の維持向上」
 - (5) 学校からの情報発信による保護者・地域との連携
 - ・「学校からの丁寧な説明と情報発信」
 - ・「学校からの迅速な情報発信と防災意識の向上」
 - (6) 公務員として十分留意する内容
 - ・「教育課程管理」
 - ・「出退勤・出張・休暇の管理」
 - ・「体罰・暴言等の未然防止」
 - ・「個人情報の管理」
 - ・「不審者対応」
 - ・「ライフワークバランスの推進」
 - ・「和を大切にした協力関係の構築」
- 今年度は具体的に以下の2点を推進する。
- ・不登校生徒の支援の工夫。
 - ・20周年式典を成功させる

【学校関係者評価アンケートについて】

1 概要

アンケートは2024年10月～11月に実施された。回答状況は以下の通りである。

生徒	全校生徒数	368名	回答数	326名	89.1%	(昨年度 77.5%)
保護者	対象保護数	367名	回答数	145名	39.5%	(同 43.2%)
地域	回答依頼数	65名	回答数	28名	43.1%	(同 27.7%)

一昨年度から区全体でWeb回答法を採用したため、回答率が全体として低下したが、その後の学校の取り組みにより、今年度は生徒と地域の回答率がかなり上がっている。

生徒については、回答当日の欠席者が少なかったこと、欠席者へも対応したこと、地域については、学校公開等も再開し関心が高くなったことによると考えられる。

他方、保護者については、昨年度と同様、3回配信を行い、回答状況を伝えたり、学校行事の際にポスターなどで呼びかけたりしたが、昨年度を下回る結果であった。ここ数年は新型コロナのため、保護者が学校に来る機会が非常に制限されていたが、今後は学校公開や行事など、参観の機会は増えるため、積極的に参加し、学校への関心を持って頂くことを期待する。

なおアンケートは各設問に対して「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」「分からぬ」の5択である。以下では「とても思う」と「思う」をまとめて「肯定的評価」、「あまり思わない」と「思わない」をまとめて「否定的評価」とする。また数値(%)は小数点以下を四捨五入した。

II 学校関係者評価アンケートによる重点項目の検討

学校経営方針に掲げられた重点項目について、アンケートの結果から検討したい。

(1) 「キャリア・未来デザイン教育の推進と実現」

- ・キャリア教育

アンケートの「キャリア教育」での生徒への設問「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。」に対する肯定的評価は 69%（1 年生 76%、2 年生 59%、3 年生 73%）、「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」は 80%（1 年生 79%、2 年生 73%、3 年生 87%）、「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」は 73%（1 年生 76%、2 年生 59%、3 年生 73%）である。キャリア教育についてはこれまで、全体として評価が低く、学年が上がるほど高くなる傾向にあったが、今年度は学年による大きな差がなく、いずれも 70%以上の肯定的評価があることは、取り組みの大きな成果である。

他方、保護者の同じ項目への肯定的評価は、各々 51%、58%、52%であるが、いずれの設問でも「分からぬ」が 30%以上となっている。

【校長所見】

キャリア教育は生徒自らの将来について考えさせるための取組であるが、肯定的評価が 70%以上ということは学校として、学年として取り組んだ内容に生徒たちは刺激を受けていると考えられ、ひとまず安心しました。

1 年生では身近な仕事調べについて一人一台端末を使い、A4 用紙一枚にまとめ壁新聞形式で学年の廊下に掲示し、仲間の調べた仕事についても見ることで多様な仕事について知識を深められました。また、夜間学級の生徒との交流を深めるために、意見発表会でまとめた 1 年生の生徒の考えを夜間学級の全員の前で発表したり、夜間学級の生徒の代表が学んでいる理由や夢をそれぞれの生徒の前で発表し合う活動を 3 月 11 日に行う予定です。

2 年生で行う職場体験をさらに充実したものにするために、地域の人材として職業人の講話を設定しクラス毎に話してもらいました。弁護士の方や漫画家の方、音楽家の方やボクシングジム経営者の方と通常の職場体験では聞くことのできないみなさんに来ていただき、なぜこの仕事を選んだのか、苦労した話など多岐にわたった話題に生徒たちは興味津々で聞き入っていました。その後の職場体験多くの体験先から、時間前に集合できていたとか、あいさつやお客様への対応などお褒めの言葉をいただきました。

3 年生ではいよいよ進路選択ということで、高校 1 年生の卒業生に一学期後半に来校してもらい、中 3 の夏休みの過ごし方やどのような考えで今の高校を選んだのか、また、中学 3 年生の勉強の仕方などを、学年主任が司会進行役としてインタビュー形式で発表してもらいました。また、3 学期後半では高校 3 年生の卒業生に来校してもらい、高校 3 年間の過ごし方や今後の進路決定をこう考えて決めたなど話してもらう予定です。

肯定的評価が 70%と喜んでいますが、どの設問にも 2 年生の肯定的な評価が低くなっていることが気になるところです。

（2）教員の指導力向上

- ・「生徒の理解を深め、活用・探究する授業の推進」
- ・「教育デジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進」
- ・「自己肯定感を高めるため、わかる教科、好きな教科を増やす工夫」
- ・「教員研修の充実」

この目標に関連するアンケートの設問は「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。」「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫し

ている。」「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。」「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」である。これらへの肯定的評価は各々、96%、89%、95%、86%といずれも非常に高くなっており、学年による差もほとんどない。

他方で、今年度から追加された「学ぶことが楽しい」については、肯定的評価が69%（1年生70%、2年生57%、3年生77%）、否定的評価が29%（1年生25%、2年生42%、3年生20%）である。

つまり、教師の授業展開については非常に評価が高いが、それが生徒自身の「楽しさ」に必ずしも結びついていないのである。ICT活用がかなり進んできた現時点で、そのメリットとデメリットを確認した上で、生徒の理解と学ぶ楽しさにつながる学習指導のあり方を改めて考えることが必要であろう。

なお「先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している。」への肯定的評価は83%で、学年が上がるほど減少している。生徒と保護者から見て、分かりやすく納得できる評価を行うことが重要である。

【校長所見】

どの教科でもいつの授業でも同じように進むことはありません。その単元の初めの授業であれば文章を読み込んだり、教員の設問について生徒に考えさせたり、基本的な問題を解いて見せたりします。実技教科であればどんな視点で自分の作品を完成までもっていくのか、資料を見せながら指導したり、その運動による注意点やルールを確認しながら簡単な活動から始まるはずです。その後の展開もそれぞれの教科で工夫は千差万別です。

肯定的評価の高さから、各先生方の授業の工夫と指導の工夫が感じられ、それに生徒たちが意欲をもって取り組んでいる姿が見えてきます。

ICTを使った授業だけでなく黒板を目一杯使う授業は書く力を育て、自分の考えや他者の考えをまとめる力となります。その授業の進め方で指導方法を工夫することは十分できていますが、生徒自身の学んでいることを楽しいと思える授業はさらにもう一步踏み込んだ授業展開を行い生徒の理解度を高める指導をする必要があります。生徒はその授業が「分かった」「できた」ということで楽しいと感じる部分が多分にあります。そのような授業展開ができるよう更なる授業研究を先生方に求めていきます。

（3）個を生かした教育の推進

- ・「生徒の個性が生かされる教育の推進」
- ・「不登校生徒へのアプローチ方法を工夫し改善を促す」
- ・「生徒・教員が双方向で規範意識を高める生活指導の推進」

この目標に対応する設問は、3点目の「規範意識」に関わるものとして、生徒の「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。」「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる。」である。これらに対する肯定的評価は、各々90%、87%、87%である。学年別では、1年生と3年生はいずれもほぼ90%以上であるが、2年生は「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。」「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる。」への肯定的評価が各々、83%と79%である。保護者については、

「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。」に対しては、肯定的評価 57%、否定的評価 18%、「分からぬ」 26%、本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。」に対しては、肯定的評価 70%、否定的評価 15%、「分からぬ」 15%である。

「規範意識」とは何かを考えるとき、「きまりだから守る」のではなく、「なぜそのようなきまりがあるのか」「あることをしなければならない（あるいは、してはならない）のは何故か」、「今のかぎりが本当に必要なのか」を問うことが重要だと思われる。

【校長所見】

三宿中学校では学校生活について指導する際、なぜこのような指導をされているのか、考えさせる指導を行っています。頭ごなしに「ダメだ」ではなく、その行為はどうして注意されているのか考えさせる指導です。普段の生徒たちはその問い合わせに「まずかった」と納得して改めてくれます。大きな声で注意する教員もいません。その結果が高い肯定的な評価につながっていると考えられます。今後も指導を継続して行きます。

保護者の生活指導についての回答は令和 5 年度と肯定的評価、否定的評価、わからないどちらもほぼ変わりがありませんでした。保護者の肯定的評価をどのようにあげていくか課題であり、考えて実践していきたいと思います。

（4）生徒の主体性の育成

- ・「学校での生活や行事において生徒が主体的に関わり、成長を実感できる指導の充実」
- ・「学校生活への適応指導と部活動の適切な指導の徹底」
- ・「健康や体力の維持向上」

この目標に対応する設問は、「先生は、生徒の意欲を大切にしている。」「学校生活は楽しい。」「学校行事は楽しい。」「私は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」である。

最初の 3 項目の中で、生徒アンケートでは「先生は、生徒の意欲を大切にしている。」への肯定的評価は 87%（1 年生 94%、2 年生 79%、3 年生 87%）で、やや 2 年生が低い。「学校生活は楽しい。」「学校行事は楽しい。」についても肯定的評価は各々 91%、93% であり、学年別では 2 年生が 90% 弱である。同じ設問で保護者の肯定的評価は「本校は、子どもの意欲を大切にしている。」が 77%（「分からぬ」が 14%）、「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」が 81%（「分からぬ」が 8%）「学校行事は、子どもにとって楽しい。」が 90% である。

「私は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」への生徒の肯定的評価は 74%（否定的評価は 25%）で、1 年生 82%、2 年生 65%、2 年生 74% である。保護者の肯定的評価は 70%（「分からぬ」が 12%）である。

この目標は、前項目（「個を生かした教育」）と関わるが、結果は全体としては良好である。ただ 1 割程度の生徒が肯定的評価をしていないことをどう捉えるかが問題である。

【校長所見】

本校の生徒たちの行事に向かう姿勢は本当に素晴らしいものがあります。1 学期にあら体育大会では、実行委員会においてスローガンを決め、クラス、学年の先頭に立って体育大会を進めてくれます。コロナ禍による混乱から、令和 4 年度から保護者の皆さんを学年入れ替えて行い、半日開催にすることで、生徒・教職員の負担を軽減しました。令和 5 年度からは保護者全員で見られるようにできました。三宿競技である大縄跳びでは、学年

を超えて応援する声や姿に感動しました。

2学期に行われる学芸発表会では、合唱コンクールにクラスでまとまるために、本音でぶつかる生徒たち、時には激しい口論になることもあったようですが、最後は素晴らしい歌声をすべてのクラスから聞くことができました。甲乙つけがたい取り組みに、それぞれのクラスで互いをたたえ合う姿がすがすがしい青春を感じさせました。

生徒たちの肯定的評価が高いのも、自分たちが頑張ったことを実感できており、また、仲間の大切さや仲間と共に成長していることが実感できているからだと思います。これからも生徒たちの意欲を高めて成長を促す指導を継続して行なっていきます。

体力向上や健康についての問いでは、体育の授業では、生徒たちは意欲的に動いており、楽しみながら取り組んでいます。しかし、運動の苦手な生徒たちは部活動でも文化部を選び、体力の向上という問いには肯定的になれない生徒もいると考えられます。体を動かすことで体力の向上はもちろん、ストレスの発散や達成感を感じることもできます。運動の楽しさを伝えることができるよう工夫して指導していきます。

（5）学校からの情報発信による保護者・地域との連携

- ・「学校からの丁寧な説明と情報発信」
- ・「学校からの迅速な情報発信と防災意識の向上」

これに関しては、保護者アンケートで「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。」への肯定的評価が77%、「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。」が78%、「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。」が69%、「本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子が分かる。」は79%である。

これは昨年度とほぼ同じ数値である。

地域アンケートでも、「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。」への肯定的評価は68%（「分からぬ」が25%）である。

これに対して、「本校は、保護者に指導の重点を伝えている。」に対しては、肯定的評価55%、否定的評価は27%、「分からぬ」18%、「私は、今年度の指導の重点を理解している。」に対しては肯定的評価30%、否定的評価44%、「分からぬ」26%である。これもほぼ昨年度と同じ数値である。

「指導の重点」は保護者にとってあまり関心のないものかもしれないが、学校としては教育の基本的姿勢として重要であり、保護者も知っておくべきものであるため、「学校だより」などで折に触れて伝えることが必要であろう。

【校長所見】

学校だよりは毎月発行しています。学年だよりも1年生で12月の段階で33号、2年生でも25号、3年生で11号とコンスタントに出されています。生徒によってはカバンの中でくしゃくしゃになっているものもあるようですが、学年の先生方は努力してくれており、70%の後半の肯定的評価につながっていると思います。その中には行事の後の生徒たちの感想なども紹介され、生徒たちの気持ちの変化を見ることもできる管理職にとっても貴重なものです。

評価について詳しく説明を求める保護者はゼロではありません。しかし、各担当の先生から資料をもとに説明すると納得してくださいます。指導の重点はその際にも使用し

ながら説明します。年度当初の保護者会等で配布していますが、9教科全ての指導の重点を理解している保護者は多くはないと思われます。必要な際には提示できるようにしていきます。

（6）公務員として十分留意する内容

- ・「教育課程管理」
- ・「出退勤・出張・休暇の管理」
- ・「体罰・暴言等の未然防止」
- ・「個人情報の管理」
- ・「不審者対応」
- ・「ライフワークバランスの推進」
- ・「和を大切にした協力関係の構築」

今年度は具体的に以下の2点を推進する。

- ・不登校生徒の支援の工夫。
- ・20周年式典を成功させる

この重点項目に関するアンケート項目はないが、教員の働き方改革と不登校への対応は喫緊の課題である、保護者や地域、教育委員会等と連携した取り組みが必要である。

【校長所見】

今年度は世田谷区も働き方改革を進めると、年度当初の教育長のあいさつにも一番に挙げられました。三宿中学校でも、水曜日朝の読書時間と昼休みの時程を変え、給食調理員の皆さんにも協力していただき、通常より40分生徒は早く下校できるように工夫しました。先生方が早く自分の時間をもてるようにして働き方改革を進めることができました。

不登校生徒の支援では、毎週行っている生活指導部会において支援方針や計画を話し合っています。社会全体の大きな問題となっている不登校生徒への支援ですが、生徒個々によって事由が様々で、中には病院に入院していて学校に来ることができない生徒もあり、保護者によっては子どもに关心の薄い方もいらっしゃいます。携帯電話への連絡に返信もなく困る場合もあります。一朝一夕で改善することが難しいのが現状です。しかし、粘り強く生徒個々に寄り添い改善に力を注いでいきます。

20周年式典では生徒たちの協力もあり、来賓68名の参加をいただき皆さんからは素晴らしい式典だったとお褒めの言葉をたくさんの方からいただきました。生徒たちも大きな声で校歌4番までを歌い、夜間学級の生徒と先生方全員での合唱もあり感動的な式典を行うことができました。

【学校関係者評価委員会の提言】

III 次年度への提言

以上で取り上げなかったアンケート項目への回答状況を踏まえ、本委員会は以下の提言を行う。

（1）学習指導について

学習指導に関する評価は概ね高く、授業での様々な工夫やICTの効果的な活用がこれまで以上に行われていると言える。ただ、それが生徒の主体的な学びと学力向上につながっているのかどうかの検討は必要である。

また、「私は、家庭で宿題やe-ラーニングなどで学習している。」に対する生徒の肯定的評価は59%（昨年度は60%）であり、最も高いのは1年生の65%である。他方で塾を利用している生徒は75%で、1年生でも55%、3年生では89%である。学習習慣を身につけるためには家庭学習が重要であるが、家庭環境や子どもの生活は多様であるため、一律の宿題から個別課題という方向が可能かどうかを検討することも必要である。

（2）生活指導について

重点目標にあるように「個を生かした教育」と「主体性の育成」に主眼を置いた生活指導を引き続き行う。また、「規範意識」は、先にも触れたように、ただきまりに従うことではない。場合によっては、きまりを疑い、自らできまりを作っていくことも重要である。

同時に、学校生活の全ての場面で、生徒が納得できるように、分かりやすく説明することにも留意が必要である。

なお、昨年度も触れたように、『生徒指導提要改訂版』（2022年12月）についての共通理解を持つことが重要である。

（3）進路指導・キャリア教育について

キャリア教育については、かなり取り組みの進展が見られているため、引き続き取り組みを行う。小学校との連携を含めて、総合的な学習の時間や特別活動に加えて、各教科指導の中にも取り入れることが重要であり、学校教育全体の中に計画的に位置づけていくことが必要である。

進路指導は、多くの生徒が初めて経験する人生選択の場面であるが、キャリア教育の成果が十分反映されるような指導が重要であろう。

キャリア・パスポートについては、学習指導・生活指導にも関わるものであり、生徒と教員の双方にとって、できるだけ負担を少なくした上で、学習に本当に意味のある形で活用されることが必要である。しばらくは試行錯誤の段階として、様々な試みを行っていくことが期待される。

（4）学校生活について

部活動については、世田谷区教育委員会「世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会報告」が令和6年3月にまとめられ、今後数年をかけて地域移行を検討することが示されたが、課題も多い。今後とも生徒や保護者の意見を踏まえて、生徒にとって意義を持ち、教職員にとって負担軽減が実現できるよう、あり方を考えることが必要である。

また不登校に対しては、「教育機会確保法」の理念に照らし、引き続き生徒自身にとっての最善の学習・生活環境を保障するような取り組みが重要である。

（5）保護者・地域との連携について

学校教育は、保護者と地域との連携なしには成立しない。学校が必要な情報発信をすることは重要であるが、保護者も学校教育の方針や内容を知る努力を行うことが必要であろう。保護者は学校の「顧客」ではなく、子どもを挟んで学校（教員）と協働すべき当事者である。

【おわりに】

令和6年12月25日に、文科大臣から中央教育審議会に次期学習指導要領についての諮問がなされた。令和8年度中に答申を行い、令和12年度から順次実施の見込みである。また「世田谷区教育振興基本計画」（令和6～10年）が今年度から実施された。

このような行政の動きを見ることは必要であるが、他方で学校の伝統と文化を大切にする、腰を落ち着けた教育活動が重要である。創立21年目となる次年度が、本校の新しい伝統形成

の元年となることを願うものである。